

榎ノ木

第貳号

平成22年12月24日発行
 青壮年部・女性部・広報部
 題字：大内翠峰

百二世（住職）とな
 られた吉田出身の名
 僧「大領義猷和尚」
 様の木像を、約一年
 間の月日を掛け、修
 復完成したお披露目

大法会について

清浄山 禪興寺 住職 梅澤徹玄

今回の行事は三つの行事を併修致しました。第一は昨年の晋山記念事業として檀家の皆様より寄進して頂いた大般若経六百巻の「筆下ろし」たる大般若祈禱です。今迄使用していた大般若経は、約百九十年前、皆様のご先祖様が寄進され、吉岡保福寺様と三百巻ずつ分有していたものです。現在は禪興寺のみに現存しておりますが、経年の痛みがひどく、使用に耐えない状態になっておりました。約四十人弱の和尚様方が一斉に、天井が抜けるが如く大声で呪文を叫びつつ、奔流する滝の如くに経本を左右前後に繰る（転読）様は、この世の邪気を洗い流すかの如き爽快さです。

第二は、江戸時代前期に瑞巖寺

式です。師は伊達家四代綱村公に禪の教えを説かれ、亡き後朝廷より勅諭号を賜った天下の名僧です。功成り名を遂げた師は、故郷吉田の地に今は廃寺となっていた長福寺を、ご自分の袈裟法衣を売り払い、禪興寺として再興されたお方です。

足台の裏の墨書きに寄りますと、今話題の坂本龍馬が大活躍していた慶応元年に二度目の修復をしておりますので、今回が約百五十年ぶり三度目となります。

尚修復費用約三百万円は、師の



弟子達が開かれた大領派各寺院様のご協力を頂きました事に改めて感謝申し上げます。



だいろぎゆう
 復元された大領義猷和尚木像

第三は、旧吉田村出身の英霊全百四十三名の方々の戦後六十五年記念慰霊法要です。現在本堂内陣左段には百四体の英霊の位牌をお祀りしております。今般は遺族会、総代方のご協力を得て、多くの遺族の方々にご参加頂くことができました。遺影（写真）を本堂内に展覧し、英霊方々の戒名、俗名を全て住職が自ら記した巻軸を読み上げ、懇ろな慰霊法要が営まれました。ご先祖様の尊い命の犠牲と私たちの平和への誓いを改めて胸に刻み、次の世代への大きな心の財産とできたのではないでしょう。合掌

寄稿

清水 浅野 衛



この度の大般若経六百巻新調記念祈禱、開山像安座開眼法要、戦後六十五年戦没者慰霊法要に出席させていただいて大変感動いたしました。

法要に先立って行われた二幡先生講話では、ご高齢にもかかわらず、戦場での体験等話されながら、人間の老いていく現実等をわかり易く説かれました。

私達がそれぞれの人生のステージで、人として果たしていかねければならない何かを、教えていただいた気がしております。

時に私の父も二幡先生と同じ四連隊に所属し、奇しくも禪興寺の先々代住職黒川東松様と同じじ

ルマで戦死したと聞いておりますので、目には見えない大きなめぐりあわせを感じながら、心を込めて焼香させていただきました。



九品寺二幡閑栖大和尚

現在の我が国は、いろいろなことが言われ、多くの課題はありますが、六十五年前とは比較にならない豊かな暮らしになっていると思います。

それは戦後の国民の努力はもちろんでありますが、祖国の発展と家族の幸せを信じながら戦場に出た、多くの英霊の願いであり、おかげであることも、忘れてはならないでしょう。

今回このような大法要を企画、運営されました禪興寺住職、総代、花園会青壮年部・女性部の皆様に改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

大法会に参列して

麓下 鶉橋昭雄

遙か船形山に紅葉の兆しが望まれる好天の10月23日清浄山禪興寺に於いて檀信徒並びに花園会員あげての大法会が盛大に執り行われました。

奇しくも先年の同日晋山式同様の日和に恵まれました。

開式に先立ち「戦争といのちく生かされて」との九品寺 二幡閑栖大和尚の講話がありました。

二幡師並びに今は亡き当山先住職黒川東松和尚と共に戦時に中国各地を転戦なされたといいました。

銃後に於いては仙台空襲、今のどかな吉田の上空を王城寺原爆撃の米軍機が銃撃しつつ飛び去ったことなど、戦争を知らない世代の人々には想像すら出来ないでしょう。戦後、我が国が戦争のない繁栄を築いてこられたのも、英霊の皆様の尊い命の犠牲の賜物であります。

今回、戦死病没者法要がとり行われました本堂内陣には旧吉田村出身百四名のお位牌が祀られています。



遺影に見入る筆者（右端）

「君が代は八千代に薫れ菊の花」

合掌

また、今回新調された六百巻の大般若経の勇壮な筆おろし仏事に、私の若かりし頃、我が家の先祖供養の祈禱に訪れ、初めて見るその様に愕いた記憶が甦りました。夕暮れの肌寒い山門の前での記念撮影、儀式を終りました。

沢渡 早坂清人

10月23日午後に行われました大法会（大般若祈禱、戦没者慰霊法要、開山大領和尚木像修復披露）にご招待を頂き厚く御礼申し上げます。

私は、曹洞宗の檀家ですが、実兄が戦没しており、戦後一時、禪

興寺にお預かり頂いていたという経緯もありましたので、そのお礼と兄の冥福のため出席させていただきました。

ありがとうございました。

大般若祈禱は、数十人の和尚様の読経によりまして六百巻の筆おろしとなる勇壮な仏事であると共に、吉田地区皆様の先祖様の供養と安泰祈願の行事だと思えました。戦没者慰霊祭の法要では、戦争で尊い命を犠牲にされました百数十名全員の名と俗名を住職様が読み上げられました。



法要参列の筆者

また、二幡和尚様の「戦争といのちく生かされて」とは貴重な講話で非常に良かったと思います。本当に乱文ですがこの辺りで終わりいたします。

大法会に参加して

反町下 堀籠健人



前日の境内整備の甲斐もあり、今秋一番の日和で大法会を迎えることが出来ました。

私は駐車場整理を仰せつかり、記念講演会が始まるころには、参列者の車が一台の隙なく駐車場に並びました。

さて、法要では百九十年ぶり新調の般若六百巻がおさめられた十二支の桐箱を配置するのを手伝いました。圧巻だったのは30人以上もの和尚様方が「降伏一切大魔最勝成就！」と唱えつつ、経本を次々に玉簾のごとく右に左に転読する様でした。

まさに禅宗の荘厳な絵巻を垣間見、唐三蔵法師が遍く施される有難い光景でした。

そしてまた、百五十年ぶりにお姿が三たび修復された中興の祖、大領和尚様、慰霊の供養が施された当地ゆかりの戦没者、あるいは幾世代もの先人により受け継がれてきた当山の歴史に思いを馳せれば、おのずと仏縁深き私どもの今生をこそ充実させなければと、ひととき感慨を深くした一時でした。



大音声とどろく大般若転読

「会費がひとつになれる喜び」

青壮年部・女性部
副会長 若生正義

子供のころからお寺に来て、遊ぶことが大好きでした、先々代住職の相澤宗復和尚さんから「正義は走るのが好きだから、マラソンの選手になったら」と言われたことを今でも思い出します。

そんなこんなで、御縁とは思議なもので、清浄山禪興寺青壮年部・女性部発足にあたり、私も会員の一人として、総勢百五十名近い会員の仲間入りをさせていただきました。

青壮年部・女性部設立後、8月12日施餓鬼会新亡供養、10月23日大法会と、大きな二つの行事が行われました。

実施に当たり数回の打ち合わせなど、そして前日にかけての諸準備と、会員及び総代の方々はじめ、多くの皆様のご協力をいただきまして、無事終えることが出来ました。

当初私は、緊張感と不安がありました。幾度となくお寺さんに足を運ぶようになってから、和尚さんをはじめ会員の方々とも気軽に過ごせる、そんな雰囲気のある会に成長したなあ、と思っています。



窓ガラス拭きは女性部にまかせて！

私共花園会青壮年部・女性部にとりましても、初めて取り組む行事であり、いろいろな不安もありましたが、会員一人ひとりの力を結集して、乗り越えてこられたと思います。

これからも会員がひとつの心になって、事業運営に協力していただきたいと思っています。



お茶出し準備の女性部



山門の幕張り



新調された大般若経



境内の落葉掃き

禪の心



大法会受付の筆者(左端)

坐禅と成道会法要に参加して

早坂妙子

12月4日(土)午後3時から禪興寺本堂において、「坐禅と成道会法要」が開催されました。

本来は、12月8日がお釈迦さまがお悟りを開かれた日だそうですが、

般若心経を読み上げ、頭と心が一体となり、お釈迦さまに感謝の焼香をさせていただきました。

また、坐禅では、初めて経験する人が多く、「足が組めない!」「手のやり方が分からない!」など、和気あいあいでした。

坐禅は、足を組み、背筋を伸ばし、

し、ぶれることなく過すつらい体験のほすが、終わった後のほっとした瞬間の一言は「もう少しやっても出来るな」でした。この体験は、意味がわからなくても体験することで、自分に、なんらかの力になるのではないかと思います。多くの会員の人たちにも体験してほしいと思いました。



背筋はピンと伸びているかな?

これからの行事(予定)

◎女性部会(法話と食事会)

◎写経会・涅槃会

2月12日(土)午後2時、いずれも会場は禪興寺本堂

編集後記

青壮年部・女性部が発足して六カ月。会報「榎ノ木」第二号は10月23日に開催された大法会特集(大般若祈禱、戦死病没者慰霊法要、開山大領和尚木像修復披露)です。

いずれも何百年に一度の記念すべき一大行事を、広報部七名の部員が手分けして取材いたしました。

当日出席された方々へ原稿依頼をいたしましたところ、皆様心よくご協力を頂きました。

その後広報部会において、原稿、写真、構成に日夜努力した結果、この時期の発行を見ることが出来ました。

「榎ノ木」創刊号、第二号を御愛読の上、皆様のお気づきになられた事、御意見等をお知らせ頂ければ幸いです。

部員一同皆様の御感想を心待ちにしております。

広報部

部長 鷗橋初雄

副部長 佐藤 彰

部員 小川弘吉 高橋一悦

浅井明美 浅野澄江

相澤敏晴